



## 不易流行：日本光学会の伝統と新たな変革

武田 光夫

(電気通信大学)

このたび思いがけず幹事長を務めることになりました。「思いがけず」と記したのは、副幹事長として担当した岡山の Optics Japan '98 の実行委員長を最後に自身の果すべき役割を終え、すでに日本光学会の役員を無事に卒業できたものと考えていたからです。ともあれ、長らく日本光学会の学会運営から遠ざかっていましたので、この機会に改めて日本光学会の歴史と現状について学んでみたいと思いました。その際に大変役立ったのが、日本光学会のホームページにある日本光学会創立 50 周年記念企画「光学会の今とこれから～ひろがる光の世界～」でした。1952 年 4 月 1 日の「光学懇話会」の設立から 2001 年にいたるまでの、日本光学会の 50 年のあゆみが詳細に記されています。読んでいて、日本光学会の歴史と伝統の重みがひしひしと伝わってきます。一方、同じ記念企画の「光の未来をさぐる」では、日本光学会とその活動に対する多くのアンケートの記録と分析を通じて、日本光学会のもつさまざまな課題と新たな変革の必要性を明らかにしています。この内容も読んでいて胸打たれるものがあります。このような貴重な記録を残してくださった、創立 50 周年記念企画ご担当の皆様の当時のご努力に、改めて感謝いたします。

私は、日本光学会にとって「伝統」と「変革」は決して対立する概念ではなく、時を経た「伝統」は必然的に「変革」を必要とし、その「変革」が新たな「伝統」を生み出すというダイナミズムが、日本光学会の発展には欠くことのできない要素であると思います。

学会運営のみならず、日本光学会の対象とすべき研究分野についても、俳諧の本質「不易を知らざれば基立ちがたく、流行を知らざれば風新たならず」(去来抄)にあい通じるところがあるような気がします。日本光学会の強みである伝統的な研究分野を大切にしつつ、それにとどまることなく、これまで光学会になかった新しい研究分野を積極的に取り込んで育てていくよう、努力をしたいと思います。会員の皆様におかれましては、年次大会 Optics & Photonics Japan や会誌「光学」などに、ぜひ積極的に新分野のシンポジウムや論文の企画やアイデアのご提案をお願いいたします。

また、変革すべき課題のひとつとして、谷田貝前幹事長が取り組まれた日本光学会の活動の国際化をさらに推進していきたいと思います。私は昨年未まで 3 年間ほど国外の学会の理事を務めて、外国からの視点で日本光学会を遠望する機会を得ました。彼我を問わず、科学技術の国際性からも、学会活動の国際化は自然の流れです。日本光学会が国際的に開かれた学会となることは、日本光学会自身にとって重要です。また国外の学会もそれを期待しています。日本の文化と伝統を大切にしつつ国外の諸学会と友好的な協力関係を構築し、外からの刺激を積極的に取り入れて、それを新たな変革の動力へ転換していくことにより、「不易流行」の学会運営の実現に向けて努力をしたいと思えます。会員皆様のお力添えを乞う次第です。